

社団法人 日本加工食品卸協会

廣田氏 提出資料

加工食品のチャネル変化と供給コスト

- 1955年より半世紀に渉り食品流通業に従事
- 最大の構造変化
生産起点型流通 → 消費型流通へ
時期：分水嶺は第一次石油パニック（1978年）か
原因：需給構造・・・供給過少から供給過剰へ
- メーカー特約別縦割流通から顧客ニーズ別横割流通へ
専売制からフルラインへ・・・多段階の解消……例酒類卸
- 部分最適から全体最適へ・・・トータルコスト削減
ECRやSCM リーテルリンク、（ウォルマート）・・・消費者へ還元
低価格化の実現
- 菱食の挑戦
小分け専用センター（RDC）設置 （1990年岡山から全国）
小売業専用センター（SDC）" （1993年相鉄ローゼンより）
外食専用センター " （2003年ロイヤル）
フルライン事業の展開
- 現在の試み
ICTタグの採用、全温度帯対応（2005年コープこうべ個配）
- 商品単価の下落を吸収する効率化努力
1989年 c/s 当り単価 3,384円
2005年 " 2,243円（66.3% △33.7%）
- 今後の課題
顧客ニーズに即応したモノヅクリ（全体最適）
IT利用によるコストダウン（無駄の排除）
マテハン機器の高度利用（人力の不足）

Ready to cook → Ready to eatへ

以上